『 風は南から 』

令和５年度　校長室便り
（　１月２９日）（第２２号）

ＡＩが共通テストを受験すると？

株式会社LifePromptが生成ＡＩ（ChatGPT4，Bard,Claude2）に今年の大学入学共通テストを受験させてみたそうです。すると，ChatGPT4が他を圧倒するスコアで勝利しました。結果は，国語62%，英語Ｒ87%，数学ⅠＡ35%，ⅡＢ46%，世界史88%，日本史68%，理科基礎88%，５教科７科目66%で，見ての通り高得点の教科でも満点は取ることができず，特に数学はかなり低いスコアになっています。この会社の分析によれば，生成ＡＩの計算スキルは，高校数学のレベルまで達していないこと，数学の試験の様式が途中の四角の中に答えを埋める形式になっているために，数学には対応できていないということのようです。また，生成ＡＩであっても，まだ複数の処理を同時に求めるとパフォーマンスが落ちるようです。

しかし，世界経済フォーラムは，生成ＡＩの影響で，2027年までの５年間で，6,900万件の雇用創出と8,300万件の雇用消失，つまり1,400万件の雇用の純減が見込まれるという予測を発表しています。

ＡＩが共通テストを受験しても今はまだこの状態ですが，進化していくことは目に見えています。そこで私たちに必要なことは，ＡＩにできないこと，ＡＩには難しいことをしっかり身に付けることです。世界経済フォーラムでは，①グローバルシチズンシップ，②イノベーションとクリエイティビティ，③テクノロジー，④対人スキルの４つのスキルを身に付けることが大切だと言っています。そして，働くようになっても「リスキング」といって，常に新しいスキルを学び続けることが求められる社会になるようです。

台湾屏東（へいとう）県生徒派遣（3名）について

鹿児島県と台湾の屏東県との交流で，２月３日から３月３日まで屏東県で熱帯農業博覧会が行われることになり，その中で鹿児島県の高校生に「おはら節」をパフォーマンスとして出演してほしい（県全体で引率も含めて15名程度）との依頼が屏東県からありました。そこで，県教委から本年度台湾と交流のあった学校から３名を募集したいという知らせがあり，１年生に希望者を募りました。

２月２９日（木）移動日（台湾へ）
３月　１日（金）学校交流（踊りの練習）
　　リハーサル
３月　２日（土）午前・午後に１回ずつ出演
３月　３日（日）午前・午後に１回ずつ出演
　　午後は屏東市内見学
３月　４日（月）移動日（鹿児島へ）

鹿児島県から台湾屏東県までの旅費，宿泊費，荷物の運送費等は，屏東県が持つそうで，それ以外は自己負担になりますが，他の派遣と同じように，「沖高教育振興事業」から補助するつもりです。

結局１年生から10名の応募があり，厳正なる選考の結果３名が決定しました。本年度は，合計４名を台湾に派遣することになりました。また帰国後は報告会を企画したいと思います。３名は頑張って鹿児島と沖永良部島をアピールしてきてください。

１月11日 共通テスト 出発式

３限目に３年１組にて共通テストを受験する３年生の出発式が行われました。最初に私が，適度な緊張感は良いパフォーマンスが期待できるので必要なこと，１教科ごとに気持ちを切り替えて次へ向かうこと，共通テストはあくまでも通過点であり，これまで通り一歩一歩前へ進むことに集中することついて話をしました。次に，すでに進路の決定した３年生から，共通テストを受験する３年生一人ひとりに，メッセージの書かれた手作りのお守りが手渡されました。サプライズの贈り物にみんな元気が出たようでした。お礼に代表して川上天歌さんが，「正直不安の方が大きいですが，応援してくれる他の３年生や保護者に恩返しをする気持ちで試験に臨みたいです」と意気込みを語りました。最後に，学年主任の中村先生から，気負いすることなく淡々と，体調を崩すことなく２日間を過ごすことが一番大切であるという話がありました。

「ロープウェイで来た人は，登山家と同じ太陽を見ることはできない（フランスの哲学者アランより）」一歩一歩登ってきて，美しい太陽が見える山頂はもうすぐそこです。共通テストが終わって残り約１ヶ月。沖高の職員・生徒一同，３年生の頑張りを最後まで応援しています。

１月19日「課題研究」発表会

19日（金）午後より商業科の「課題発表会並びに進路報告会が行われました。３年生が「課題研究」の授業を通して取り組んできたことを１・２年生に報告することで，３年次の授業における研究テーマや研究内容の立案に参考にするのが目的です。当日は，３年生が３つの班に分かれて報告してくれました。資格取得班は，資格取得に向けて取り組むことで，進路に対する意識が芽生え，目標に対する忍耐力や持久力が身に付いたこと，調査研究班は，沖永良部島の魅力を伝える動画や夜光貝の製作を通して，島の良さを再発見できたこと，作品製作班は，知名町とヤマハ発動機と共同してＥＶバイク製作に加わり，自分たちの意見が形になり最終的にTokyo Mobility Showに参加して多くの方に紹介できたことを，動画等使って発表してくれました。

経営コンサルタントの名和高司氏は「これからの会社経営は，自分のための欲望ではなくて，他者にとって価値のあることをしたいという信念，パーパスが必要だ」と語っています。今回の発表を受けて，１・２年生が社会や沖永良部島のために，自分は何をしたいのかを本気で考えたり，３年生の研究内容をさらに深化させたりすることを期待してします。その後進路報告会があり，１・２年生も将来の自分の姿と重ねて，進路選択を考えるよい機会になったようです。